

3班 ワークショップ内容

(1) 班内各意見の背景の確認

- ・「協働」、「市民参画」、「コミュニティ」のイメージについて意見交換をした。

「協働」について

ホワイトボード板書

- ・それぞれの良いものを持ち寄り合い（補完）一つの目的に向かい、達成する
烏合の衆ではない
- ・市民全体が力を合わせると同時に、市民と行政と一緒に動く
- ・みんなで議論をしながら動いていく
- ・行政と住民と一緒にあって行政がやることをやる
- ・物事を一緒に議論することから始まるもの
- ・立場は異なっても、対等な立場で共通の課題に取り組んでいく
- ・「協働」の言葉の中で、お互いにいいように使い合っている
- ・お互いに助け合って、より良い生活にしていくこと
- ・お互いに自分たちの能力を生かして、役割分担をする
- ・行政職員が地域に入っていくこと

発表内容

- ・「協働」のイメージについてはたくさん挙げられたが、言うなれば「行政と住民と一緒に議論をし、対等な立場で意見を述べ合い、力を持ち寄って共通の課題に取り組み、生活をより良くするために一緒に動く」ということではないか。

「市民参画」について

ホワイトボード板書

- ・役割分担ではなく、市民が行政がやっている中に入る
- ・住民が公式に意見を言えるというポジションを得たもの
- ・誰でもが、出たいというところに出れるということ
- ・行政主導型から市民参画型へ変えていくこと
- ・行政の方針について、企画・計画の段階から市民が参画できる仕組みをつくること
- ・生活に根ざしたものを団体で行うこと
- ・出るだけなら参加、出席
あくまでも基本的人権に根ざした権利
- ・計画・立案に参加すること

発表内容

- ・「市民参画」のイメージは
このまちをどうしていきたいか、という行政の大きな方針に関して、住民が計画段階から参加できるポジションを得た、ということ
地域の行事に参加し、次にこうしたい、という計画が出て、その計画に参加する、ということ

「コミュニティ」について

ホワイトボード板書

- ・旧町村をコミュニティと呼ぶ
- ・地域社会が発展していくためのもの
- ・コミュン（共産）とコミュニケーションの中間
- ・同じような立場の集まり
- ・区単位くらいがイメージ
- ・活動していく単位の一つ
- ・内容に合わせてコミュニティの単位を考えていくことが必要
- ・お互いに助け合うことを目的として、自主的にできた地域単位
- ・災害のときに重要になるもの
- ・地域を支えている様々な単位

発表内容

- ・「コミュニティ」のイメージは
町内会や学校区、13の各区など、地域を支える様々な単位である
何をやるか決め、それを行う人々が集まる単位もコミュニティである

(2) 班としてのカテゴリーの決定

- ・下記のカテゴリー分けについて、
「協働」と「参画」は一緒になるのではないか
「教育」と「福祉」は一緒になるのではないか
との意見が挙がったが、この時点でまとめるべきではないとして、このまま挙げた。

協働	情報	参画	コミュニティ	財政	生活指標	安全・安心	教育
福祉	環境	議会	歴史・文化				